

氏 名	モハン モルティ パント MOHAN MOORTI PANT
学位(専攻分野)	博 士 (工 学)
学 位 記 番 号	工 博 第 2146 号
学位授与の日付	平成 14 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 4 条 第 1 項 該 当
研究科・専攻	工 学 研 究 科 生 活 空 間 学 専 攻
学位論文題目	A STUDY ON THE SPATIAL FORMATION OF KATHMANDU VALLEY TOWNS-THE CASE OF THIMI (カトマンズ盆地の都市の空間構成に関する研究—ティミを事例として)
論文調査委員	(主 査) 教 授 高 橋 康 夫 教 授 岡 崎 甚 幸 教 授 高 松 伸

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、カトマンズ盆地の都市の空間構造を明らかにし、その形成過程について考察することを目的としている。具体的に、考察の対象とするのはティミ Thimi である。カトマンズ盆地には、カトマンズ、パタン、バクタプルの中の三つの主要都市に加えて31の小都市集落があるが、ティミはパタン、カトマンズとバクタプルの中間に位置し、その解明によってカトマンズ盆地における都市空間の原型的構成を明らかにする狙いがある。

全体は9章からなり、序章（Ⅰ）に続く、Ⅱ—Ⅷの章の展開を踏まえて、結論（Ⅸ）を導いている。

序（Ⅰ）章ではまずカトマンズ盆地の集落の概要を明らかにし、既往の研究のついでの位置づけを行っている。続いてティミについてその地理、歴史の概要をまとめた上で、研究の目的方法、文献資料について論じている。

Ⅱ章は、「コミュニティと集落」と題し、ティミにおけるコミュニティのレベルを論じている。まず、社会階層、職業に関わるコミュニティ、次に祖先を祭る共通の祠堂に関するデワリ dewali・コミュニティ、さらに最小のコミュニティ単位としてクラン・コミュニティという三つのレベルのコミュニティ組織の構造を明らかにしている。また、その内部構造を明らかにしている。さらに、フィールド調査に基づいてそれぞれの分布を明らかにしている。また、デワリ・コミュニティのうち特別にデグリ deguli 祠堂をもつコミュニティについて、そのデグリに関する祭礼の分析を行っている。

Ⅲ章「クランの居住単位」は、最小単位であるクラン・コミュニティの居住単位、ナニ nani の構成を具体的な地区についての詳細調査をもとに明らかにした。具体的には、ナニの類型、そのオリエンテーションなどを明らかにしている。

Ⅳ章「住居類型」では、ナニを構成する住居の類型を論じ、三つの類型を明らかにすることによって、屋敷型住居から街路住居への変化について明らかにしている。また、住居の寸法（モジュール）を論じ、街区計画と関連あることを立証している。

Ⅴ章「近隣単位トル tole」では、いくつかのナニによって構成されるトルの空間構成を明らかにし、トルの類型を析出している。また、トルの空間構造についてモデル化を試みている。

Ⅵ章「街路体系と都市計画」では、ティミの全体構成を論じている。初期の都市核に一定の区画割があることから、それが計画されたものであることを実証し、その構成について考察した。高台になっている町の東に接したラヴァドルと呼ばれる畑で街区モジュールが明らかにされ、約38.5m 置きに9つの区画が認められた。旧都市核の中央東に位置する王宮が、都市計画上也重要であり、街区のパターン、クランの集住単位であるナニ nani、そして近隣単位であるトル toles の方向の基準となっていることを実証している。

Ⅶ章「母神バラクマリの都市祭礼」においては、祭礼において明らかとなる社会関係と空間との対応が本章の主題である。毎年行われる都市祭礼について、まず、その起源、歴史を明らかにし、伝説の意味をめぐって考察している。続いて、バラクマリ祭礼に関わる祭祀集団を明らかにすることによって、コミュニティ組織の原初的あり方について考察している。そして、そのプロセス、祭礼のコースを明らかにすることによって、当初の空間形態について考察している。

Ⅷ章「都市発展 碑文解説」においては、以上のような形態分析に加えて、ティミに残されている碑文を援用しながら、都市の発展段階について考察し、明らかにしている。具体的には、ティミは、初期中世すなわちリッチャビ期に、既に先行して存在していた集落を核として計画されたことが明らかとなった。

以上、本論文が新たに明らかにした事項をまとめて結論（Ⅸ）としている。本論文で新たに用いた資料、碑文、調査方法などについては附章として APPENDIX I～V にまとめている。

論文審査の結果の要旨

本論文は、カトマンズ盆地の都市の空間構造および形成過程を解明することを目的に、具体的には先史時代から存在が知られながら形成過程が明らかにされてこなかったティミをとりあげて、そのコミュニティ組織の構造と空間構造の対応関係を、居住単位としてのナニおよびそれを構成する住居類型とその変化に関する詳細な現地調査に基づく解析、街路体系の分析、祭祀圏の解明および残された碑文の精査などによって明らかにしたものであり、得られた主な成果は以下の通りである。

1. ティミのコミュニティ組織は、社会的地位、職業に関わるマキシマル・コミュニティ、共通の祖先に関わるデワリ・コミュニティ、およびフキと呼ばれるクラン・コミュニティの三つのレベルから構成されている。
 2. クラン・コミュニティが居住単位とするナニの空間構造には三つの類型があり、それぞれ歴史的成立段階の違いがあることを示した。また、ナニのオリエンテーションの地区毎の違いを明らかにし、ティミの初期の都市核を明らかにした。また、ナニを構成する住居にもナニの類型に対応して三つの類型があることを明らかにし、屋敷型住居から街路型住居への変化を明らかにした。
 3. いくつかのナニによって構成される近隣単位トルの空間構成を明らかにし、その空間構造についてモデルを提示した。
 4. 街路間隔に一定の寸法が採用されていることを明らかにし、初期の都市核が計画されたものであることを明らかにし、その構成を解明した。
 5. 母神バラクマリに関する都市祭礼について、その巡行範囲、祭祀圏を明らかにし、各地区の差異を明らかにした。また、以上のような形態分析に加えて、ティミに残されている碑文を援用しながら、都市の発展について、初期中世すなわちリッチャビ期に、既に先行して存在していた集落を核として計画されたことを明らかにした。
- 以上、本論文は、カトマンズ盆地における都市計画および都市形成史に関して新たな知見を提供し、カトマンズ、パタン、バクタプルといった王都の空間構成を明らかにする上で大きな示唆を与えるものであり、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士（工学）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成13年11月14日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行った結果、合格と認めた。